

安全でこそ “釣りは楽しい！”

私の釣り暦・・・何と、35年にもなりました。

今日まで、日本中の色々な海でお世話に成り、楽しませて貰いました。

その間、湖のようなべた凧の海や、今にも転覆しそうな大荒れの海・・・

色々な表情をする海の顔色を伺いながらと、良くも悪くも、長く付き合ってきたものだ・・・

楽しい思い出が沢山有るけれど、怖い・・・と、思ったことも何回も有った。

そうそう・・・一度は超大物釣りで、根掛かりを外そうとして道糸が小指に絡み、寸での処で指を落とすところ・・・一瞬の船長の判断で助かったものの、一年間小指は麻痺したまま・・・

しかし、どんなに怖くとも“死ぬ”と思った事など、一度もなかった。

何故って・・・色々、事故の話は聞くけど、自分とは無縁の遠い世界の話！

自分だけは“決して、死ぬ事などない！”・・・と確信し、楽しんできたから・・・

皆さん、憶えておりますか・・・**2006年10月8日の伊豆沖遊漁船（明好丸）**
転覆事故。

当日、私はその船に乗船しておりました。

午前4時20分、全員、シマアジの大漁を夢見、仮眠中でした。

事故は一瞬でした。

凄い衝撃に襲われ、体が前壁に激突し何が起きたのか・・・誰一人、事態を掌握できませんでした。

やがて、船が横転している事に気付き、事の重大性を理解できました。

そして、直ぐに暗闇の海に飛び込んだ人・・・遅れて、飛び込んだ人・・・

全員が、何とか助かろうと各自の判断で行動しました。

冷静に行動しようとし、結局、最後に船室を出たのは私でした。

それは、横転後暫らくして凄い音と共に転覆し、船室は後方出入口より鉄砲水で一気に没してしまったからです。

真っ暗な船室を手探りで泳ぎ、息尽きる直前、かろうじて船外に脱出出来たのです。

何とか、転覆船のスクリューに掛まり、最初の危機を回避しました。

しかし、これで終わった訳では有りません。

襲い掛かる寒さと恐怖の中、時折り寄せる大波で、一時助かった筈がまた海中に・・・

私が助かった事を知ったのは、5日後の集中治療室のベットの上でした。

これ以上は、・・・

今、私が思うこと・・・

- 1： こんな大きな船が、転覆など有り得ない。・・・と錯覚しておりました。
- 2： 自身には事故は起きない。・・・と勘違いしておりました。
- 3： 何か有っても、直ぐ助けてくれる。・・・と安易に考えておりました。

こんな事を、日頃考えていたように思います。

之からの事・・・

事故はどんなに未然防止をしても、絶対安全・・・と言う事は有りません。

ましてや、自然との共生で予測できない事態は沢山有ると思います。

しかし、我々が出来る最善の未然防止で、事故を最小限のリスクにする事も出来る筈です。

行政や、船主・組合がすべき事と、我々釣り人がすべき事をそれぞれが実行しましょう。

行政への提言

海に限らず、山の事故でも発生と救命は、時間との戦いです。

今回の事故では、発生後、遠くで我々を探す僚船を何隻も見ましたが、一向に近づいてきませんでした。

この時代、GPSでの位置確認は数メートルも狂わず、認識できます。

是非、全ての船舶に遭難信号発信装置を義務付けしてください。

*** * * 船主・組合への提言 * * ***

協定料金である以上、共通のサービスと安全性がある筈です。

特に春休みや夏休みなど、親子連れの釣り人に同じ救命胴衣などありえません。

出船の可否や、どの様な装備をするか。等、明確にしてください。

又、**雑誌・映像の収録には救命胴衣不着用者の掲載は控えてください。**

*** * * 釣り人への提言 * * ***

* 釣り道具を揃える前に、先ずは身の安全！

救命胴衣は命綱！です。My 救命胴衣を必ず着用しましょう。

又、乗船を断る勇気を持ちましょう。

．．．．**最後に**．．．

7名の尊い命が奪われました。

誰が良くて、誰が悪かったのか．．．

後日、ご遺族の皆様とお話しをしました。

かけがえのないご親族の、遺骨すら抱いてあげられない悔しさは

涙でしか答えられませんでした。

この様な不幸が二度と起きない事を切に願って止みません。

東京都町田市

岡安好貞